



麻布幼稚園だより

令和7年2月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

今年の節分は、2月2日。週末であることから、幼稚園では少し早めの豆まきとなりました。麻布幼稚園の豆まきでは、鬼が登場したり、鬼に豆を投げつけてやっつけたりすることはありません。「病気や怪我をしませんように」と願いを込めて豆まきをし、「怒りんぼ鬼」「めんどくさがり鬼」なども追い払いました。玄関や保育室の出入り口には、柗鯛を飾りました。伝統的な季節の行事を経験することで、日本の文化に親しみをもち大切にすることを願っています。自国の文化に親しみ大切にすることが育つことは、他国の文化に触れたときに、興味や関心をもち大切にすることを繋がります。麻布幼稚園では、日本の文化や伝統的な季節の行事を丁寧に経験させ、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えを培っていきます。

幼稚園では「こども会」に向けての取り組みが始まっています。プレイルームや保育室からは、楽しそうな声や音楽が聞こえてきます。子供たちは日頃から、絵本の読み聞かせや紙芝居などに親しんでいます。物語には、話のおもしろさ、繰り返しのリズムや言葉のやり取りの楽しさなど、子供たちが大好きな要素が様々にあります。そのような楽しさと共に、体を動かして表現する楽しさが「劇遊び」にはあります。

話の流れに沿って動く楽しさ、友達と一緒に声や動きを揃える楽しさ、友達と相談しながらつくり上げていく楽しさ。学年によって楽しさの中身はそれぞれですが、学級や学年のみんなと一緒にすることが楽しいというのは共通です。

みんなの中で自分なりの表現を伸び伸びとすることは、考えてみると大人でも難しいことかもしれません。子供だからできる、という訳でもありません。どの学級も、4月から積み重ねてきた友達や先生との関係性があるからこそできるのです。

どのような表現をしても受け止めてもらえる安心感、認めてもらえる関係性があるからこそ、伸び伸びと表現をすることができます。感じたことや考えたことを、自分なりの言葉や動きで表現することは、自分を表現する力や自信につながります。保護者の皆様の前では、いつもと違う姿となることも十分予想されますが、観客となる保護者の皆様には劇遊びの一員として、大切な育ちにも目を向けながら、温かい目や拍手で、応援していただければと思います。

節分の翌日は立春です。球根の芽が少しずつ伸び、梅の花の蕾が膨らんでくるこの時期、確実に春が近付いていることを感じます。

5歳児年長組は、これまでしてきた「お休み調べ」や「誕生会の司会」などを「4月からはどうするのだろうか?」「そうだ、年長組になるさくら組さん(4歳児)にやってもらおう。」と相談をしているようです。年長5歳児は小学生に、年少3歳児と年中4歳児は一つ大きな組のお兄さん、お姉さんになることへの期待が膨らみます。そんな、「ワクワク」「ドキドキ」を大切にしながら、2月も充実した毎日にしていきたいと思います。